

# 経済情報ピックアップ

## 10月

### ◆2016年10月IMF「世界経済見通し」のポイント

- 10/4日にIMF（国際通貨基金）が公表した世界経済見通しによれば、世界経済成長率（実質GDP）は、2015年の前年比3.2%から16年は3.1%と若干減速し、17年は3.4%と、再び緩やかに回復する姿となっています。また、16年、17年ともに本年7月時点の見通しに比べると横ばいで、世界経済見通しは漸く下げ止まっています。
- このうち、先進国の成長率は、全体で2016年は1.6%と7月の見通しから▲0.2%ポイント（以下P）下方修正され、15年の成長率の2.1%から伸びが大きく鈍化しています。17年は1.8%（7月見通し比横ばい）と、16年から若干持ち直しますが、「期待外れ」の低成長に止まっています。
- 先進国の2016年成長率の下方修正は、年前半の米国経済のもたつきが主因です。米国は、16年1.6%と7月見通しから▲0.6P下方修正され、15年の2.6%から大きく低下しています。17年は2.2%と持ち直しています（同▲0.3P下方修正）。
- これは、これまでの為替ドル高、原油価格低下の影響等から、2016年前半の輸出、生産、設備投資が想定以上に弱い動きとなったことが影響しています。17年は雇用・所得や消費が回復を続ける中、ドル安化、原油価格の持ち直しから経済が回復する姿を見通しています。
- 一方、英国EU離脱の国民投票結果のユーロ圏経済に与える悪影響は、7月時点からはむしろ緩和しています。すなわち、ユーロ圏は2015年の2.0%から16年1.7%、17年1.5%と成長率は低下する見通しですが、7月との対比では、16年、17年ともに+0.1P上方修正されています。
- 英国も、2015年の2.2%から、16年1.8%、17年1.1%と成長率は大きく低下しますが、7月見通しから16年は+0.1P上方修正されています。もっとも、17年は同▲0.2P下方修正（4月見通し比▲1.1P）されており、英国経済に与える悪影響は、17年にはさらに大きくなる見通しです。
- 2016年の英国EU離脱決定の欧州・英国経済への悪影響が限定的である理由としては、EU・英国の大胆な金融緩和策の奏功、英ポンド・ユーロ安の進行に伴う輸出採算の改善、既往原油安の恩恵等から失業率が高水準ながらも低下し、消費・投

資の増加が続いていることが挙げられます。

- 日本は、2015年の0.5%から16年0.5%、17年0.6%と成長率は概ね横ばいに止まり、先進国の中で最も低い成長が続く見通しにありますが、7月との対比では、16年+0.2P、17年+0.5Pと大幅に上方修正されています。この背景には、消費税率10%への引上げ時期の延期と、「未来への投資を実現する経済対策」の実施があります。
  - この間、新興・途上国の成長率は、全体で2015年の4.0%から16年は4.2%、17年は4.6%と緩やかに回復しています。7月見通しに比べると16年は+0.1P上方修正（同17年は横ばい）されており、景気減速から脱し安定しつつあります。
  - このうち、中国の成長率は、2015年の6.9%から16年6.6%、17年6.2%と減速が続く見通しです。これは、中国政府が、現在、経済構造について投資・鉱工業中心から消費・サービス中心にシフトを図る一方で、鉄鋼・石炭・セメント等過剰設備を抱える業種での設備廃棄、赤字が続く「ゾンビ企業」の淘汰という改革を続けていることが主因です。
  - もっとも、7月との対比では、2016年、17年ともに横ばいとなっています。中国人民銀行による貸出基準金利の累次に巨る引下げのほか、企業減税、小型乗用車の車輛購入税の半額化や公共インフラ支出の増額等の財政政策が奏功し、経済の減速テンポは緩やかになっています。
  - インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムといったASEAN諸国は、2015年の4.8%から16年4.8%、17年5.1%と緩やかに回復する見通しです。7月との対比でも、16年、17年ともに横ばいで、成長率は下げ止まっています。こうした背景として、中国経済の減速テンポの緩和、原油価格等の国際商品市況の反転が指摘できます。
  - 資源国では、原油等の国際商品価格が2016年入り後反転したため、国の収入増加が、自国通貨高を招き、インフレも沈静化傾向にあること等から、経済成長率が上方修正されています。ロシアは、15年の-3.7%から16年-0.8%、17年1.1%（7月対比16年+0.4P、17年+0.1P）、ブラジルも、15年の-3.8%から16年-3.3%、17年0.5%（同16年、17年ともに横ばい）と持ち直す見通しです。
- （筑波総研チーフエコノミスト 渋谷康一郎）